

北関東の山無し県 茨城のクライマー集団の会報

# R&V 64,65号

2007年1~6月



ACC-J茨城

## ワケ 山が好きな理由

《大日》

人それぞれ山が好きな理由があると思うけど俺の場合は小さい時に筑波山で『遭難』したのがきっかけだ。子供のころ夏休みと言えば親戚のおっちゃんが筑波山に連れて行ってくれた。そしてあれは3回目だったか小学校2年生ごろだったと思う。久しぶりに合う遠方の従兄弟のにーちゃんを加え7名で登山を行った。するとおっちゃんが今回はロープウェイで登って歩いて下りるかということになった。もう3回目で余裕もあってロープウェイを降りるなり競走になった。俺はといえばほとんどガイド気どりではじめてのにーちゃんを引っ張って女子組を引き離しにかかった。そしてみなさんも知つての通り途中の茶屋からつつじヶ丘に下りるのには、左に回り込む感じになるのだが勢い勇んでまっすぐに駆け下りて行った。で、そろそろ駐車場が見えて来てもいい頃なんだがその気配がない。そのかわりに見たことも無い建物が見えて来た。そこで間違いにきづいた。にーちゃんと二人愕然として座り込んでしまった。大人だったらしやあーない、しあやーないで登り返せばいい話だがまだ幼い子供にとってはりっぱな遭難である。迷子ともいうが・・途方に暮れていると先の方に案内板が見える。見てみるとそこから左に行くとつつじヶ丘に行けるようだ。くどいようだが大人ならラッキーって感じだが幼い俺達にとっては未知への大冒険である。意を決して突き進むことにした。当時その道はあまり整備されておらず何本も登山道に木が倒れ込んでいて、それをある時は飛び越え、または下をくぐりまさに大冒険の様相だった。どれくらい走ったか、なにか自然界ではない音が聞こえて来た。頭上を見るとすぐ上をロープウェイが走っている。もう近いと確信した。二人とも走るスピードが上がる。そして無事駐車場に到着した。今でも俺達を見つけた時のばーちゃんの安堵した顔、文句言いたげなおばちゃんの顔、勝ったって顔のいとこの女子ども、そしてなんかものすごい達成感の僕達。今でも鮮明に覚えている。そしてその時の気持ちを忘れない限り山を好きでいつづけることができると思う。

(吉田 記)

## 《目次》

2007年冬・春号 1月～6月 ACCJ-茨城

卷頭言－山が好きな理由－	1
集会報告	3
山行報告	4
板敷峠～加波山～つくばユースホステル跡	6
箱根 金時山	8
笠間ボルダー	9
つくばユースホステル跡～八郷町半田	10
湯河原幕岩	12
大菩薩嶺	13
岩瀬～つばめ山～岩瀬	15
磐梯山東稜	16
仙ノ倉山山スキー	17
雪上訓練	19
栗駒山	20
日立大みか駅～高鈴山～神峰山～小木津駅	23
御岩山アイゼントレ	25
高峰～仏頂山	26
鹿島槍 ダイレクト尾根	28
立山山スキー	29
浮川 小田倉沢	31
谷川岳 変形チムニー	33
友好山岳団体の月報・会報・その他	36
編集後記	49

\* 表紙－鹿島槍から剣岳を望む (Photo by Motozu)

## 集会報告 (於：ガスト土浦店)

### 【1月】

1月10日：本図、菊地、鯉河、吉田、渡辺、坂田、鈴木、笹平

1月24日：本図、菊地、吉田、渡辺、坂田、笹平、鈴木

### 【2月】

2月 7日：本図、菊地、吉田、渡辺、笹平、中島、坂田

2月21日：本図、菊地、吉田、渡辺、笹平、鈴木、坂田

### 【3月】

3月14日：本図、菊地、吉田、渡辺、坂田、鈴木

3月28日：本図、菊地、吉田、渡辺、坂田、鈴木、笹平

### 【4月】

4月11日：本図、菊地、渡辺、坂田、笹平（見学2名）

4月25日：本図、菊地、笹平、坂田、渡辺

### 【5月】

5月 9日：本図、菊地、吉田、渡辺、鈴木、坂田

5月23日：菊地、吉田、渡辺、笹平

### 【6月】

6月 6日：本図、菊地、吉田、渡辺、坂田、笹平

6月20日：菊地、吉田、渡辺、坂田、笹平

## 山行報告

(2007年1月～6月)

### 【1月】

12月31～1月1日	箱根 金時山	菊地、鯉河
12月31日	板敷～つくばユースホステル跡	本図
1月2日	笠間ボルダー	鈴木
1月3日	つくばユースホステル跡～ 八郷町半田	本図
1月3日	湯河原幕岩	鈴木、他1名
1月8日	大菩薩嶺	本図、渡辺、坂田
1月21日	岩瀬～つばめ山～岩瀬	本図

### 【2月】

2月11日～12日	城ヶ崎／湯河原	鈴木
2月12日	磐梯山東稜	本図、渡辺、坂田
2月25日	北山公園ボルダリング	鈴木

### 【3月】

3月3日～4日	城ヶ崎	鈴木
3月21日	仙ノ倉山山スキー	中島
3月17日	城山ワイルドボア	鈴木
3月24日	城ヶ崎	鈴木

### 【4月】

4月1日	雪上訓練	本図、菊地、水戸葵8名
4月8日	栗駒山	木村、他4名
4月15日	日立大みか駅～高鈴山～ 神峰山～小木津駅	本図
4月22日	御岩山アイゼントレ	本図、渡辺
4月29日	高峰～仏頂山	本図

【5月】

5月3日～5日	鹿島槍 ダイレクト尾根	本図、渡辺
5月3日～5日	立山山スキー	菊地、中島、木村
5月3日～4日	岩泉ひょうたんケイブ	鈴木
5月5日	八戸のとある岩場ボルダリング	鈴木
5月6日	久慈 侍浜ボルダリング	鈴木
5月8日～9日	沢川 小田倉沢	坂田
5月20日	いわき高倉山	鈴木

[6月]

6月16日 谷川岳 変形チム三一 渡辺、坂田

## 板敷峠～加波山

### ～筑波ユースホステル跡

2006. 12.31

パーティー 本図一統

私の住んでいる石岡市柿岡は、関東平野なのに山に囲まれている盆地である。昔から柿岡盆地と言われている。表筑波連峰から裏筑波連峰、そして難台連峰（仮称）と繋がっている。岩間～愛宕山～難台山～加波山～筑波山～石岡市半田まで距離は 60 キロ以上あるが、それを全部歩いてみようと思う。今日は 7 日前に歩いた愛宕山～板敷峠からの続きである。前回は 15 キロくらい、今回は 20 キロはあるだろう。

加波山林道入口までワイフ君に送ってもらう。林道は加波山神社まで通じており、今は車で登れるのだが歩いて登らなければ縦走の意味がなくなる。長い林道歩きが終わると神社の駐車場があり、2～3人の人が明日というか今晚の年始の神事の準備をしていた。加波山神社はタバコの神様で、山麓の本殿には大人4人くらいで担ぐ大きなキセルが奉納されており、毎年キセル祭りも行われる。

余談であるが、加波山には加波山神社という名前の神社が二つある。この二つの神社は非常に仲が悪い。キセル祭りを行う通称「たばこ神社」の方の言い分では、あち

らはもともと違う名前の神社であったが、加波山神社が有名になるにつれて、後から勝手に加波山神社の名前を名乗り始めたとのこと。あちらの加波山神社はニセモノだとのチラシまで作成し、参拝者に配っている。この二つの神社が山麓の本殿も隣り合っており、山頂にあるいくつかのお社も、二つの神社が入り混じって建ててあるので、非常にわかりにくくて、一般の参拝者はなにがなんだか分からぬであろう。しかしニセモノと言われる神社の方がお社は立派であり、いやはやどうなっているのかチンパンカンパンだ。

そんなことは私にはどうでも良いことなので、そそくさと足尾山に向かう。風力発電所に下りる手前のベンチで一休みしていると、一人のハイカーが追い抜いていった。どこまで行くのかマラソンのように凄いスピードだった。2基の風力発電幾を見学してみる。近くで見るとかなり大きく、ハンググライダーには邪魔な存在だろうなあと思う。発電所からは林道が続いているが、なるべく登山道を探して歩いていく。足尾山山頂も私だけだ。小休止。頂には足

尾山神社のお社があり、ここは読んで字のごとく足の神様である。足をケガした人が回復を祈って、靴や義足などがたくさん奉納されてあった。私も5円（ご縁）のお賽銭をあげ、回復を祈る。

ハンググライダーのティクオフから林道を歩いて筑波山に向かう。きのこ山の頂上からショートカットしようとしたら凄いヤブで追い返された。上曾峠を経て、さらに林道を歩くと湯袋峠の真壁よりに出た。この辺は地元なのでルートについては螢のケツである。時間もまだありそうなの

で筑波ユースホステル跡まで登ることにする。これで次回は半田まで行ける見通しがついた。

ユースホステル跡から携帯電話でワイフ君に迎えを頼み急いで下っていく。それは先ほど登ってきた路面の一部が凍結していたからである。やがて下のほうでタイヤがスリップする音が聞こえる。急いで降りていくと案の定ワイフ君はここでスリップを繰り返していた。しかし、事なきを得たのでまずまず良かった。

(本図 記)

## 箱根・金時山

2006. 12.31～2007.1.1

パーティー 鯉河仁志、菊地光夫

俺が19歳で登山を始めた頃、ある山の本に、箱根の金時山に美しい金時娘がいると書いてあった。それからいつか見に行つてみたいと思っていたが、30年以上もすぎてしまった。なかなか行くことが出来なかつたのは、ハイキング的は山行にうしろめたさがあつて、なかなか計画がたてられなかつたと思う。しかし今は、そういうためらいもなにもなくなつた。12月に入ってから菊地氏に同行をお願いし、今回の金時山越年登山となつた。昔美しい金時娘も、今はどんなになっているのか少々不安な気持ちで出発の日を迎える。12月31日、17時に出発し高速は使用せず、国道6号から国道1号を箱根を目指し金時神社に21時頃に着く。いつも楽しみの宴会も大晦日なので、いつもより酒を多く飲んでしまつた。

出発はご来光を見るため3時30分駐車場を出る。アルコールがまだ体から抜けないのでかなりきびしい。途中何度も休憩し、アルコールが体から抜けた頃、頂上に着いた。神社から1時間40分くらいだが、だいぶ長く感じた。寒い中御来光を待ち、感動の一瞬を迎え思わず万歳をしてしまつた。その後朝食を取り、今回の山行の目的の一つである金時娘を探す。山頂には、小屋が二つあり、一つの小屋の曇った窓を手でこすり中をのぞくと、それらしき女性の姿はなかつた。もう一つの小屋をのぞいたが、それらしき姿を見つけることが出来なかつた。残念だったが記念写真をとり下山した。

(鯉河 記)

## 笠間ボルダー

2007. 1.2

パーティー 鈴木大輔

つくばから行く場合、もっとも近い場所にあるボルダリングエリアが笠間である。以前は独自のグレードが使用されていたが、室井氏らによって課題が再登され、また新しく追加され、段級グレードがつけられた。また、黒本にも紹介されたため、笠間は関東近県では数少ない貴重なボルダリングエリアとして、知られることとなった。

そういう話だけは聞いていたものの、行く機会を逃していた。メトリウスの厚いマットが特売されていて思わず買ってしまったこともあり、12月中旬になってついに行ってみることにした。下道で一時間半程度とやはり近く、駐車場もあってアプローチも便利である。とりあえず簡単なものから片付けていったが、6級の課題はどれもできなかつた。12月末にもう一度行く機会があり、その時スポーレでよく会うTさんに会つたので、一緒に登ることができた。使用ホールドとムーブを教えてもらうと、前回できなかつた6級はすべて片付けることができた。外岩ボルダーはほとんど経験がないのでムーブを探るのが難しいのだが、よく知っている人と登るといろいろ教えてもらえるので取り付きやすくなる。2級のワシントン倶楽部も登ること

ができた。

で、年明けて正月休みに再び笠間へ向かった。代表的な課題であるラブタッチ(3級)を登るためである。これはフリクションを最大に使って、岩に抱きつくようにして、登る課題である。リーチがものを言うので、体格差により体感難易度が変わるので、この前来たときにはほぼムーブはわかつたため、今回片付けようというわけである。

その日は錦糸町のジム一派が10人くらいの規模で来歩いて、どの岩も人だらけである。空いている笠間しか知らない僕は少々戸惑いを覚えた。ラブタッチも3人くらいとりついていたが、混ぜてもらうことにした。空気は乾燥していてフリクションは良いものの、僕のリーチと岩の大きさが相変わらず微妙な距離のため、なかなか上がれない。その内に指皮がすり減ってついには出血してしまう。結局のところ、20回以上はトライしたかと思うがとうとう登れなかつた。「いったい何が楽しくてこんな岩に抱きついているのか」と錦糸町のボルダラーと自嘲し合つた。明日もあるし、もう指がだめになつてしまつたので、他の課題に取り付く気合も出ず、その日は帰ることとした。

(鈴木 記)

# 筑波ユースホステル跡～筑波山～

## 朝日峠～石岡市半田

2007. 1.3

### パーティー 本図一統

4日前の大晦日に歩いた続きである。先日に続きワイフ君に送ってもらう。ケーブルカーとロープウェイが動きだす前に筑波山を過ぎたいので、明るくなると同時に筑波ユースホステル跡から歩き出す。それでも、すでに御幸ヶ原には数名のハイカーがいた。女体山を過ぎ、つつじヶ丘に向かって降りていくと、やはり早起きのハイカーが数名登ってきた。つつじヶ丘は、ロープウェイがまだ動いていないので車の数はまだ少ない。恐らく、正月休みで天気も良いので、これから大混雑になるであろう。

ここからしばらくの間は車道を歩いていくほかない。昔あった登山道は、筑波スカイラインとパープルラインにズタズタにされ、無くなってしまった。私が小学生の頃は有料道路やロープウェイなんかも無くて（ケーブルカーはあった）、学校の遠足で、家からここまで歩いて登ってきたことがある。舗装道路をただ歩くだけなので、昔のことを思い出しながら歩いていく。するとそれを打ち消すように、キーキーキーとスリップ音を立てながらハイスピードの車が通り過ぎていった。それをキッカ

ケに恐怖との戦いが始まった。数台の車が、早朝の道路を凄いスピードで行ったり来たりを繰り返している。ここでの道路に歩道はないので、恐る恐る端っこを歩くのだが、彼らの腕前を信じて歩かなければならない。特にカーブの内側を歩くときは、車が側溝ギリギリに寄ってくるので怖いことこの上ない。この恐怖は不動峠近くまで続いたが、時間も遅くなり観光客の車が増えたがっていなくなってしまった。

パープルラインは現在無料になったので、不動峠にあった料金所も撤収され、草ボウボウの広場になっていた。朝日峠からはパラボラアンテナへの舗装道路を登る。ここからは車止めがあり一般車は入れないので静かだ。と思ったのはつかの間で、グオングオンと爆音を立ててオフロードバイクが2台入ってきた。パラボラアンテナから先はいよいよ山道になる。先ほどのバイクはこの先も走った跡を残して行つた。今度は反対方向からは7～8人のマウンテンバイクのパーティが来た。こういう輩が多いのだろうか「オフロードバイクやマウンテンバイクの通行を禁ずる」旨の看板も掲げてあった。

あおば峠を通過。ここから雪入方面へ少し降りると、知る人ぞ知る「なんとかの水」が湧いており、水を汲みに来た人が順番を待って並んでいる姿を見たことがある。私には興味のないことであるが、私の家の近くには他にも2ヶ所湧き水があり、遠方の人が夜中まで汲みに来ると聞いている。

あとは右下に閑居山を見ながら歩きやすい道を進む。私は半田のどの辺りに出る

のか分からなかつたが、精神病院の近くで県道に出られた。

これで旧八郷町外輪山といつてもよい60数キロを歩いたことになる。ここから子供の頃に登った、今は碎石採掘場になっている竜神山を登り、出発点の岩間まで歩けば本当の一一周になる。今度歩いてみようかな、暇なときに。

(本図 記)

## 湯河原幕岩

2007. 1.3

パーティー 鈴木大輔、他1名

湯河原幕岩は温暖な伊豆にあり、冬行く岩場としては定番の場所である。優しい課題が多いので、講習会もよく開かれている。今回は、湯河原の茅ヶ崎ロックの中でも有名なシャクシャイン(10d/11a)を登るつもりだった。しかし、昨日の笠間で指皮はすっかりなくなってしまい、さすがに出血はとまったものの、むき出しのままではとても岩など持てず、指先のほとんどをテープングしなくてはならない状態だった。

それでもアップで登った帰還兵(10c)は何回も登っていたこともあり、あまりパワーを使わずスムーズに登ることができた。シャクシャインは混んでいたので、近くにあるゼルダ(11a)をやってみることにした。出だしにホールドが乏しく、またリーチも必要なこともあって、最初は苦労したが、最初のムーブを解決してしまうとあとはガバしかない短いルートなので簡単に完登できてしまった。少しお買い得かもしれない。いずれにしても、これが初めての外岩11台なのだった。

シャクシャインをやっていた団体がいなくなったので、上からヌンチャクをかけてトライを開始する。しかし指の痛みが激しく、そんなに便数が出せないまま、核心を越えられずその日は終わった。非常に悔しい思いをしたが、1ヶ月後にまた来たときにシャクシャインは登ることができた。ピンチホールドの持つところを変えたら、ずいぶんかかりが良くなって、楽に行けた。前回、こんなにいいホールドだとは思ってもみなかつたので苦戦してしまった。最初からここを持てばよかったのだ。だが、クライミングとはそういうものなのだ。わかってみれば簡単なものである。

この後、城ヶ崎、城山に通つて、11台は確実にできるようになった。ボルダリングコンペにも出て、わりといい成績を残すことができ、この冬は充実したシーズンであった。

(鈴木 記)

# 大菩薩嶺

2007. 1.8

パーティー 本団一統、坂田英希、渡辺聰子

謹賀新年・2007年明けての初詣はここ数年、近所の女化神社と定番化しつつある。しかば新年明けての山詣はと問われれば、ここ数年の流れから八ヶ岳となるはず。が、しかし。

冬型に押され押されて、山行計画もずずつと南下。大菩薩嶺と相成りました。

菩薩とは仏陀の次に位が高く、悟りを追い求める者。仏陀（釈迦）は悟りを開いた由緒正しい方であり、悟りを開けぬ者は死をもって仏となる。ううむ。なんとも切ないオキテではないか。

そんな風に考えてみれば、新年明けての初山詣が大菩薩とは、今年の山を占う意味でもうってつけなのかもしれない。

とはいえ、自身、何の予備知識もないまま出発時刻は刻々と迫りつつあり、仕事の合間に食料はモチロン、地図を探しに行ったり、ワッパどうしようか憂慮してみたりで、こりや大忙殺。なんちて。（これが言いたかったのである）

まあ、悟りを開くかどうかは別として、定刻に出発。一路大菩薩に向けて車中の人となつた。

冬の大菩薩は裂石先の林道ゲートから歩き出すこととなる。

ココで積雪数センチ。のんびりと身支度をしている間にもたくさんの登山者が先を行く。さすが人気の名山。

淡々と歩を進めれば上日川峠、福ちゃん荘、そして大菩薩峠へとたどり着く。

大菩薩峠は山頂である大菩薩嶺よりも展望が良いため、多くの山岳紹介は〔嶺=峠〕どころか〔嶺<峠〕という差別的な扱いをしており、少々心痛むところである。

とはいってみればナルホドと妙に納得してしまうほどに峠の展望は良く、南に雄大な富士、東に九十九谷を思わせる奥多摩の山の連なりは見る者を飽きさせない。ここでノンビリといきたい所ではあったが、展望とは裏腹に強風が吹き荒れ、それどころではない。

富士は大きな雪煙を上げ、北西に目を移せば遠く奥秩父の峰嶺は厚い雲を被っている。もし八ヶ岳に行っていたならいかほどの、おおよその想像はついた。

山頂は樹林の只中にあり、全く展望はない。ちょっとした広場と山頂標識があるだけ。しかし、しかし、ココこそが頂。峠にない

ものがあるはず。現に今日だって、こんな強風をもやさしい樹林がガードしてくれている。

こんな地味な頂だからこそスポットを当ててやるもの、心意気ってモノ。

どうせなら褒めて伸ばしてやろうじゃないですか。

山頂からは丸川峠を経てゲートへと戻る。丸川峠は思いのほか開けていて心地いい場所であった。

この北側は泉水谷で大黒茂谷や小室川谷もこの辺りへ行き着くことになる。

なんだかんだと稜線上は立派な雪山で、大

変満足な山行となった。

下山後、大菩薩の湯・600円ナリでスペベお肌になつたら、路面凍結の青梅街道を奥多摩経由で下っ走り。

燃料節減、高速代節減のためはモチロンのこと。ACCJは環境のコトを考えて、エコの実践をしています。

減らそうCO<sub>2</sub>。

今週の悟り

やっぱり嶺より峠。理想では納得できないこともある。でも温泉は500円が理想。

(坂田 記)

# 岩瀬～燕山～加波山

2007. 1.21

パーティー 本図一統

岩瀬から加波山に登るルートは、2万5千  
図を見ると何本があるが、今はどの道がメ  
インに歩かれているのか分からぬ。勘を  
頼りに尾根末端からの道を歩くことにす  
る。岩瀬駅の駐車場に車を置き、明るくな  
ったばかりの中を犬に吠えられながら歩  
く。

舗装道が終わり山道に入るが、勘は外れ  
たようだ、道形はあるものの多くの倒木が  
道を遮っており、今は歩かれていないう  
や。いいかげんイヤになってきたころ登山  
道に飛び出す。どうやら、岩瀬駅の南南東  
にあるお寺わきからの道が今はメインに  
なっているようだった。その先で2匹の獵  
犬がまとわりついてきたが、人間なれして  
いるので咬まれる心配はなさそうだ。その  
後に鉄砲を担いだおじさんが歩いてきた。  
そうか今は獵期なのだ、撃たれないよう気  
をつけなきや。

燕山の登り出しのところに、地図にも出  
ている左に向うはっきりした道があった。  
少し偵察してみたがずっと続いているよ  
うだ。昔は林道だったらしく、今でも結構  
歩かれているようだった。燕山への登りは  
数日前に降った雪が残っておりピンソ  
ルを履いた。燕山頂上にはパラボナアンテ  
ナがあり、高さも隣の加波山と比べて同じ

くらいだ。地図で確認すると8mの差しか  
なかつた。

加波山頂は踏まず、加波山神社駐車場か  
ら八郷側に下りる。ここから出発点の岩瀬  
駅まで戻るには、かなり歩かねばならない  
が、歩く訓練なのだからしようがない。や  
がて左に行く道があつた。多分これが前述  
した道に繋がっているではと感じたので  
行ってみることにした。案の定燕山の登り  
だしのところに出た。ここでの勘は当たつ  
たようだ。さてこれから往路を戻るのも能  
が無いので、地図にある猿田という集落に  
続く道記号を行ってみることにした。今は  
歩かれている様子はなかったが、最近通つ  
たとみられるマウンテンバイクの跡が残  
っていた。

猿田集落に出てからは、ひたすら岩瀬駅  
に向かって舗装道を歩く。あっちキヨロキ  
ヨロコツチキヨロキヨロ、こういうのが以  
外に楽しいものである。旧家らしきもの  
があると背伸びをしたりして覗きながら歩  
いているので、知らない人は怪しげなヤツ  
と思ったに違いない。

岩瀬駅(7:00) — 燕山(10:45) — 岩瀬駅  
(14:15)

(本図 記)

## 磐梯山東陵

2007. 2.12

パーティー 本団一統、坂田英希、渡辺聰子

我らにとって、日帰りできる雪山としては八ヶ岳が定番なのだが、ちょっと趣向を変えて磐梯山に行くことになった。あわよくば去年買ったフリートレックの滑り初めができるかもしれない。

朝起きてみると天気はまずまず、スキー場のリフト終点のパトロール小屋に計画書を提出していよいよ雪山へ。本団さんはスノーシューで、坂田さんと渡辺はショートスキーで歩き出す。シール登高が苦手なせいもあってなかなか前にすすまずいい加減イヤになってくる。それでもなんとか赤植山の頂上までやってくる。赤植山頂上は雪が全部とばされるようで石がごろごろしており、新しいスキーの板が傷つくのでわ、とひやひやものだった。

そこから沼の平まで格好良く滑降、といきや細尾根で滑るどころの話じやない、あてがはずれてがっかりである。気を取り直していよいよ磐梯山東陵に取り付く。みるみるうちに傾斜がきつくなり、スノーシューでもスキーでも上るのが困難になってきた。結局3人でツボ足ラッセル。結論としてこれが一番早かったね。でも、歩みが調子よくなつた一方天気は急速に下り

坂。みるもるうちに視界は遮られ吹雪の中を突き進む。ふっと傾斜が緩くなったと思ったら若干下ってる？脇をみると頂上らしきプレートがある。あぶないあぶない。後で見返してもなんだかよくわからないだろうけど、一応記念撮影をしてとっとと下山にかかる。来た道を忠実にたどりスキ一場へ戻ってきた。スキーを持って行ったものの登高には苦労し、滑るような斜面はスキー場の中だけ、という山スキーのもぐろみは大はずれだったけれどまた百名山をゲットして満足な山行であった。

(渡辺 記)

# 仙ノ倉山山スキー

2007. 3.21

パーティー 中島 淳

本団さんとスキーに行くことになり、もし天気が良かったら平標から仙ノ倉山シッケイ沢を滑る予定で今夜の宿である石打丸山スキー場に向かう。トンネルを抜けても雪はまったく降っておらず星空が見えおり明日は天気が良さそうである。

7時石打を出発約30分で平標登山口の元橋に到着。別荘地の一番奥まで入ってもらう、20分位時間短縮できた。本団さんに感謝いたします。登山の準備をしていると別荘の管理人が来て「ここに車を置いてはダメ」とか何やかんやわめきに来た。送ってもらっただけで駐車はしないと言うと、入って来ても駄目だという。しょうがないのですいませんでしたと謝ると帰つて行きました。朝から気分が悪くなるが天気は上々である。

石打でスキーをする本団さんと別れ、一人河内沢沿いについているトレースにしたがってシールで登っていく、橋を渡り間もなくヤカイ沢に入っていく この辺で約30cm位スキーが潜る。トレースがないと大変である。斜面が急になる頃先行パーティーに追いつく。約10人位おりボーダーは3人で、スノーシューで登っているのでスキーのトレースを崩してしまって登

りにくくしている。

3時間位で小屋からの稜線にでた。風で雪が飛ばされてクラストしているが、傾斜がないのでシールのまま平標に到着。

11時15分 携帯で本団さんと交信シッケイ沢に行くか悩んだ（行かなければよかった）が、天気は良いし、何よりも土樽まで迎えに来てくれるなんてチャンスはないので行くことに 土樽3時30分頃の待ち合わせとする。以後PM5時30～6時位まで交信できず。

平標から仙ノ倉までアイゼン着用で1時間位 風は強いが快晴で、谷川岳や苗場山それに上越の山々がきれいである。

食事を済ませ滑降の準備をして出発

PM1時 頂上から北側のピークまで滑り、GPSで方向を確認して斜面に飛び込む完璧なアイスバーンである。エッジは研磨してきたので切れがよく、気持ちよいターンで高度を下げる、200m位降りた頃から新雪になりヒザ位まで潜るようになる。沢が狭くなり左右の斜面からの雪崩が怖いが、デブリは全くない。しかし、まだそんなに降りてないのに突然、滝が現れ肝を冷やす。左側の斜面を慎重に下る。毛渡沢はまだ見えてこない。

傾斜が緩くなってきてスキーが全く滑らない。ラッセルになってペースが上がらない。

毛渡沢に出ればトレースが有ることを期待してがんばる。毛渡沢にでると水流が出ている トレースもまったく無い。シールを着けて、下りのラッセルと渡渉の連続で全く先に進めず時間ばかりが過ぎてゆく。本図さんとの約束の時間は過ぎてゆくが、携帯が繋がらず連絡のしようがない。渡渉十数回。沢から雪面まで這い上がるのが大変で両岸は雪壁状態 平年ならば沢は雪で埋まっているはず、これも暖冬のせいなのか、やっと仙ノ倉沢出会いに着くも、吊橋がワイヤーだけになっているではないか、迷ったすえ沢を渡る事にする。かなりの水量であるが 靴はすでに水びたしなので浅い所を見つけて渉る。

もう日は落ちて、あたりはうす暗くなりかけてきた。

林道に出ると、ワカンのトレースがある、しかし幅が狭すぎて板が2本入らない、1本の板だけトレースに入れてなんとかスキーで下る。

林道を少し進んだ頃本図さんから携帯が繋がる。心配した様子である。駐車場にいたよその登山者の方が迎えにこちらに向かっているとのこと。大丈夫なので戻ってもらうように本図さんにお願いして下山を急ぐ。途中からヘッドランプをつけてスキーで滑り降りました。今まで初めての経験だった。

土樽到着 PM 7時 本図さんありがとうございました。また自分に御苦労さんでした。もう一度行きたいですね。条件の良い時に

(中島 記)

## 雪上訓練

2007. 4.1

パーティー 本団一統、菊地光夫、他水戸葵山岳会 8名

毎年、恒例になっている雪訓を水戸葵山岳会と合同で谷川の天神尾根でおこないました。

今年は何時もより参加人数が少なかつたが総勢13名は集まり、天気にもめぐまれ、講師には水戸の永井さんにお願いをして、傾斜のあるところさがし、災害用の土嚢袋を利用した、支点のとり方の訓練や木の小枝を使っての確保、およびブッシュをぐるぐるとシーリングで巻き確保、安定感は土嚢袋に雪を詰めた方法が一番よかったです。繰り返し練習をしてから、冬山だけが人が出た時に担架を使った斜面での下ろし方、初めてだったので非常に勉強になった、今まででは数人でロープを持

ち確保をしながら下ろしていく方法なら、何回か以前にも訓練をしていたが、永井さんにおそわった方法は樹林帯のなかでのやり方でなるべく太い木を利用して支点として人が木に回りこみ声かけながら合図を送る方法は効果的でスピードもあり勉強になった。その後は時間の関係でビーコン訓練は今回はとばして、ゾンデ棒を使い、人を雪の中に埋め棒の当たる感覚の訓練、以前にも行なっていたが繰り返しの練習が必要だと思います。その後は簡単にできる、雪洞の作り方、こんな方法でも雪洞が出来るんだなと勉強になりました。日も西に傾き雪訓は無事終了しました。

(菊地 記)

## 栗駒山山スキー

2007. 4.8

パーティー 木村一、他5名

昨年の1月から仕事の関係で岩手県の岩泉町に出向して、龍泉洞と言う鍾乳洞がある町に住んでいます。近くにはフリークライミングのエリアでひょうたんケイブがありますので、近くに来る機会がありましたらぜひ声を掛けて下さい。

岩手県に来てから初めての山スキーに行って来たので下記に報告します。

岩泉から盛岡を経由して一関に向かい栗駒山の登山口を目指しましたが、途中雨が降り出し、さらに高度を上げるに従い霧が漂いだして、登山口いこいの村に着いた頃には濃霧といった状況でした。初対面の方もいるのでお互いに自己紹介後、天気予報ではそんなに悪くならない予報だし、Hさんが用意した赤布と私のGPSがあるので不安は全く感じないままいこいの村を出発しました。いこいの村からイワカガミ平の間の道路は除雪が始まっている雪面から道路までの段差があるので、これから行かれる方は要注意です。

一部除雪が済んでいる道路を歩き、イワカガミ平の手前から再びスキーで登高開始。イワカガミ平には仙台から来た先行パーティー5人が休憩していたので我々もここで小休止。この頃から天候が回復して栗駒山の頂を

一瞬垣間見ることが出来ましたが、『あんなに栗駒山の頂上は遠かった?』と心の中で自問していました。

イワカガミ平からは仙台のパーティーと相前後してシール登高を続けましたが、仙台のパーティーは東栗駒山に向かう為に右に進路を変えて進み、我々はそのまま栗駒山の頂を目指しました。栗駒山の頂を見るとスキーヤーが数人滑降しているのが見えましたが、無木立の快適な斜面なので滑る前から心がウキウキしてしまうような斜面です。しかし、我々が頂上直下の快適な斜面の登高中に天候が急変してきました。

ここまで暖かい日差しを感じる春山でしたが、遠くの山に湧き出していた雲がみるみる栗駒山の頂を覆い始め、更に遠くでは雷鳴が1回聞こえました。雷鳴が続くようだと安全の為にここから引き返しましたが、雷鳴が聞こえたのはこの時1回だけでした。更に高度を上げるとアラレが降り出し更に風も強くなる始末で、私が頂上に着いた時には栗駒山は我々を拒否しているような感じでした。休憩もそこそくにして雨具を着込み滑降の準備をして後続を待ちました。しかし、美女3人組が頂上に立つと天候が急激に好転し、アラレも止み視界が利くようになった頂上で写真を撮り、Mさんを先

頭にお待ちかねの大滑降開始。Mさんは革靴を履いてステップソールのスキーで見事なウェーデルンであつと言う間に遙か下方。負けじと後に続いて無木立の快適な斜面に飛び込むが、バックカントリースキヤーはこの瞬間を求めて汗と涙とヨダレを流して雪山を登るのだと確信しています。今年はスキー場の圧雪されていない所を選び練習したのでテレマークターンが面白いように決まる。

メンバー各々が直滑降、斜滑降、いい格好、不恰好と形に囚われず山スキーを楽しんでいる。登高時に比べて滑降時の時間の短い事、あつと言う間にイワカガミ平到着。ここで遅い昼食。イワカガミ平からは低いブッシュの中に続いてブナ林の林間滑降。この斜面は深雪時には快適な滑降が期待できそうだ。傾斜が30度前後ある急斜面の林間滑降の為に多少苦労したメンバーもあったみたいだが、次回も美女3人組と一緒に山行が出来ればいいなと思い、いこいの村を後にした。

他メンバーの感想を下記に紹介します。

#### 【Hさん】

晴れるか曇るか降るのかはつきりしない天気でしたが、いこいの村栗駒からスタート。はじめ除雪の終わった道路をスキーを担いで歩き、その後雪の上を歩きました。仙台からの5人グループと相前後して(彼らは東栗駒へ)歩き、頂上直下は霰が吹きつけ、厳しい登りでしたが、12:45 頂上到着。厳しい山頂でしたが、写真を撮ろうと待っているうちに晴れて

きて素晴らしい景観が見られました。視界が良好になり下りも快適に滑り、いこいの村まで帰ってきました。久しぶりの栗駒は十分に楽しめました。

あられ痛かったです。ほっぺたをひっぱたかれたようでした。目にも入って、右目がしばらく開けられなかつたほどでしたね。

#### 【Mさん】

写真を写す直前のあられ交じりの吹雪はすごかったです。そのままの状態だったらHさんが立ててくれていたルートフラッグとKさんのGPSを使わなかつたら無事帰れたかわかりませんでしたね。それにしても山の天気は変わりやすい事を改めて実感しました。

#### 【Uさん】

「晴れ女」パワーが発揮できたようで良かったです。(苦笑)

お天気が回復し、下りは快適で楽しかったですね。

大満足でした。しかし、最後の山頂への登りは本当にきつかったです。

つくづく、体力のなさを 痛感しました。

精進したいと思います。

#### 【Rさん】

栗駒山スキー山行、とても楽しかったです。山頂からの大斜面は素晴らしい、スキーワークその私でも爽快な気分になりました。下部の林間急斜面は、スキーが回せず大変だった~。

「山スキーって楽しいぞ」と心から思った山行でした。

【Tさん】

久し振りの山スキーでしたが皆さんのお陰で楽しめました。

山に向かっている時には雨が降り出し、どうなるかと思いましたが、Kさんの晴れ女パワーのお陰で天気も良くなって楽しい山行でした。

Mさんのようにどのような斜面でもスキーで軽やかに滑れるようになりたいと思い  
スキーの練習に精進したいと思います。

コースタイム:いこいの村(9:20)～イワカガミ平(10:50)～栗駒山山頂(12:45)～イワカガミ平(13:30)～いこいの村(14:25)

(木村 記)



栗駒山山頂にて(木村)

# 日立大甕駅～高鈴山～神峰山

## ～小木津駅

2007. 4.15

パーティー 本図一統

この連山を日立アルプスと地元の人たちは呼んでいるらしいが、日本国中、なににアルプスという名前はアマタある。北アルプスや南アルプスの名だってヨーロッパのアルプス山脈から取ったものである。素晴らしいアルプスであることを期待していくことにした。

前夜、小木津にある自然公園の駐車場で寝、早朝の電車で小木津駅から大甕駅に向かう。大甕駅でモロモロの出発準備をすませ、駅北側にある歩道橋で常磐線を渡り、茨城キリスト大学わきをぬけて風神山に向かう。早朝ハイキング仲間なのか 10 名近い人数が下りてきた。風神山までは車の通れる広い道であったが、その先は山道になつた。ただひたすら歩くのみで、途中みかけたコシアブラはまだ早くて採取にならない。このコース、総じて展望はあまりよくない。

日立高鈴ゴルフ場を左に見てから、舗装道を横断する。やがて高鈴山に着く。と簡単に済ませるが、実際はこの間は結構長いのだ。しかし、これといった変化がなく記すべきものがないので省略した。高鈴山か

らの展望はまずまずで、ハイカーが 10 人以上はいた。車で頂上近くまで来れるのか普通の街着の人もいる。一休みしようか迷ったが、私はこういう賑やかな頂はあまり好きでないので、休むことなくそのまま通過し少し先の静かな場所で小休止する。

お岩山では道からはずれ、しばしのコシアブラ偵察をするも、やはり早くて採取にならなかった。だれか知っている人がいないかと、岩場をウロウロしてみたがクライマーの姿はなかった。通いなれた道を向陽台へ下りる。旧トンネルの上から神峰山を目指す道を歩くのは私は初めてだ。というか、高鈴山も神峰山も頂を踏むのは今回が初めてである。神峰山にも多くのハイカーがいた。神峰公園から登ってきている人が多いように感じた。観測機器みたいな物があるけどアメダスだろうか。数年前に崩壊した大煙突の残った部分が見えるほかは展望もあまり良くないけど小休止とした。

あとは、目的は歩くことなので小木津自然公園に向かってモクモクと歩く。小木津自然公園に入ってから、分かれ道が何ヶ所かあり、どちらに行ってよいのか迷ったが、

結局どこを行っても下で合流するようであつた。いいかげん疲れて歩くのがイヤになるころ駐車場についた。歩行距離約 33 km。

小木津自然公園駐車場(4:35)ー小木津駅(5:03)ー(電車)ー大甕駅(5:16~5:40)ー風

神山(6:35)一日立高鈴ゴルフ場(9:05)一高  
鈴山(10:30)一向陽台(11:20)一神峰山  
(12:05)一小木津自然公園駐車場(14:15)

(本図 記)

## 御岩山アイゼントレ

2007. 4.22

パーティー 本団一統、渡辺聰子

GWに備えてのアイゼントレ。御岩山にくるのは久しぶりだ。いつものように広場で装備をつけ、いつものように貸し切りの岩場でひたすらトレーニングをくり返す。御岩山の岩場は北岳バットレスの4尾根にちょっと似ているところがあってわりと私のお気に入り。

広場で休憩をしているとハイキングの二人組がやってきた。聞くともなく聞いているとどうやら山のベテランが山の初心者に向かって装備の不備を指摘していくようだった。「山にくるのにその格好はないではないか。」「水と食料、非常食は必ず持ってこい。」うんうんとうなずいていると、このベテランが我々に気がついたようでお説教に力が入る。「ほれみろ、山のベテランはちゃんとこういう格好をしているんだ。」ってプラブーツとアイゼンを指さす。・・ってあんた、御岩山のハイキングにプラブーツはいらんだろう、と心の中で思う。追い打ちをかけるように「あんたらはちゃんとシュラフとかもってきてるんだよね。」と話しかけられた。・・・。おっちゃん、いくらなんでも御岩山にシュラフは持つてこないよお。

いやあ、御岩山ではいろんな人に出くわしたが、これまでの中でも大ヒットである。

満足するまでトレーニングを行った後、別件の用事を果たし、御岩山を後にした。御岩山、岩登りをしては非常に人気のない岩場であるが、いろんなものがあるのでは私はとても大好きだ。GWもがんばるぞ！

(渡辺 記)

## 高峰～仏頂山

2007. 4.29

パーティー 本図一統

今日は GPS のテストを兼ねた歩行トレである。おそらく今は歩かれていなかろう道を登り仏頂山に立ち、その後は栃木茨城県境稜線を高峰に縦走するという計画である。

後道集落から GPS にしたがって歩き出す。林道は最奥の人家で無くなる。この最奥の人家には、大型犬が数匹いて物凄く吠えられ、繋いであると分かっていても怖かった。ここから予想通り歩かれていなかる道形を探しながら、というより GPS の指す方向に進む。完全なヤブコギである。そのうち高峰仏頂山間の稜線に出たので、右に一登りすると仏頂山頂上だった。

今日は距離は短いし、天気も良く時間もあり焦ることないので、ゆっくり歩いてよいのだが、一人だとおしゃべりするわけでもなく、歩く以外にやること無いので結局休むことなく歩いてしまう。これは私の性格から来ているのであろう。つまりセッカチなのである。

奈良駄峰付近は登山道近くまで石採掘が行われており、なにもここまで山を崩すことないだろうと思う。それでもハイキンコースになっているのでヤブコギもなく、道は良く整備されていた。

ただ歩くだけの山登りはなにか物足りなさを感じるが、私はもの好きだからどんな山登りでも好きである。私は昔から「危険と困難のない山登りほどつまらないものは無い」と豪語してきた。その考えは基本的に今でも変わっていないが、足をケガしてから、もしかして危険も困難もなく、ただ歩くだけの登山もそれなりに楽しいものである、と昔より強く感じるようになってきたのも事実である。しかし、好き好んでヤブ山を歩いているわけではなくて、あくまで歩くトレーニングである。同じ歩くなら、なにか目標を定めないと続かない。私の近くの山は低山ばかりなので、今まで見向きをしなかったのだが、最近になって登ってみたら新しい発見があつて、以外に面白いと感じたので、どうせなら本来の山行の合間に、全部登ってしまおうか、などとアホなこと考えたこともある。

高峰にはパラグライダー発進基地があった。県境を下るよう指示している GPS に反して、道どおりに下ると県境から離れ、栃木県側に下りてしまうようだ。でも道がはっきり付いているので、それを下ってみると舗装された林道にでた。この林道は地形図には載ってなく新しいものようだ。

林道を県境方面に少し登ると県境峠（仮称）に出た。ここからは七曲坂を下る。名前だけあって確かにクネクネと曲がって道がつけてある。不意に後ろから2台のマンテンバイクが降りてきたのでビックリした。ボブスレー状に凹んでいる道は、マウンテンバイクで降りるには好都合なのかもしれない。ところどころ自転車が走りやすいように道が修復してあった。

人家に出てから、車までショートカットしようと、GPSが示す方向に何回も進路を取るが、道がすべて途中で無くなったり、人家の庭先に出たりで、結局元に戻る結果

となる。急がば回れとはこのことだ。山の斜面を見ると数人が山菜取りをしていた。コシアブラのシーズンなので何を採っているのか気になった。笠間方面への道を尋ねてきたおばちゃん2人とひとしきり話す。最後の鍬柄峠は低い峠なのに、早足で歩いているせいか息が切れた。

後道(7:25)ー仏頂山(8:30)ー奈良駄峠(9:10)ー高峰(9:50)ー林道登山口(10:20)ー林道県境(10:30)ー七曲坂下(10:55)ー鍬柄峠(12:20)ー後道(12:40)

(本図 記)

## 鹿島槍・ダイレクト尾根

2007. 5.3~5

パーティー 本図一統、渡辺聰子

三度目の正直で鹿島槍。

3日

西俣出合から北股本谷のほうへ入り最後の堰堤の手前にベースを張る。トレースをつけるために本谷の奥へと入ったところ、鎌尾根の取り付きを過ぎたところで、聞こえる地響き。雪崩だよ～、しかも明日通る予定のまさにその場所！急に襲ってくる恐怖心から不安でいっぱいになる。ベースに戻ってからもなんだか落ち着かない。そうこうしているうちに雨がぱらぱら落ちてきたので早々にテントに入つてシュラフに潜る。

4日

雨は降ったりやんだりをくり返し、起床予定の1時の時点ではまだ降っていた。2時を回ったところ雨はやんで星も見えだしたので起き上がり、予定より1時間遅れで出発する。雨が降ったせいか気温が下がらず、昨日つけたトレースは役に立ったんだかどうか・・。真新しいデブリ地帯を無事に通過し、尾根上にてようやくほっとする。釜尾根からはさらさらとちり雪崩がひっきりなしに落ちてい

た。

ダイレクト尾根自体はさほど難しいところはなく、ブッシュ混じりのところで1ピッチだしただけだった。ひたすら雪壁を上りその名の通りダイレクトに南峰の頂上へでた。ようやく鹿島槍の頂上を踏むことができた。できれば北峰も踏みたいと思ったのだが時間的に厳しいと断念、下山にかかる。赤岩尾根を少し進み西沢へとシリセード。17時ごろベースへ戻ってきた。

5日

何時までも眠っていられないで早々にテントをたたんで出発したのだが登山道でたくさん寄り道をしてしまい、結局大谷原へは10時頃戻ってきた。鹿教湯温泉で山スキーパーティーと合流した後一般道で茨城に戻ってきた。今年も天気に恵まれ楽しいGWだった。

(渡辺 記)

## 立山山スキー

2007. 5.3~5

パーティー 木村一、菊地光夫、中島 淳

仕事の関係で岩手県にきてからから約1年以上が過ぎました。零石スキー場まで2時間、安比高原スキー場まで2時間の距離。陸中海岸沿いの岩泉町に住んでいるのでテレマークスキーイヤーには良い環境の所です。朝の6時に出発すれば8時頃にはスキー場に着くので今シーズンは7回スキー場でテレマークスキーの練習をしました。今シーズン前にテレマークスキー用の革ブーツを購入したのでスキー場で数回練習しましたが、プラブーツとはやはり勝手が違います。今回はプラブーツを持って北アルプスの立山真砂沢を滑るべき、茨城を5/2の夜に出発しました。メンバーはCLの中島さん、シェフの菊地さんと私の3人。平均年齢は56歳。喧騒の黒4ダム、室堂を後にして歩き始めるが雪面はカリカリのアイスバーン。下りになった所からスキーを履いて一気に雷鳥平のキャンプ場に滑り込んだ。雷鳥平のキャンプ場には赤青黄のテントが所狭しと立っている中、水場に一番近い所に我々もテント設営。聞くところによると、昨晩から今朝に掛けて雷雨があり、更に冷え込んだので雪面がアイスバーンになっているらしい。ここから見上げる雷鳥沢にもやっと人影が見られるよ

うになった。我々も明日登高予定の小走沢を詰めて、真砂岳の頂に立ってから、小走沢を滑ってテントに戻ろうと言う計画でスキーにシールを付けてテントを出発した。小走沢の雪面は固く締まっていて歩き易い。順調に登高を続けて、稜線に手が届く距離に近づいた頃に菊地さんが遅れ始め、シールが良くないせいかシールが利かず後戻りしてしまうらしい。この上まで行くと更に雪面がアイスバーンになっている事も予測されるので今日はここで打ち止めにして、シールを外して待望の大滑降開始。直滑降、斜滑降、不恰好とそれぞれのスタイルで滑っているが、硬い雪面にテレマークターンが決まり気持ちが良い。あっと言う間に雷鳥沢のテント村に到着。テントに戻りテントの外でいよいよ雷鳥沢ビヤホールの開店。翌朝は雪面が緩む7時過ぎにゆっくりとテントを出発。稜線付近は雲の流れから風が強くアイスバーンになっていると予測し、アイゼンを履いてスキーを紐で引っ張りながらの登高開始。予測通りに高度を上げるに従い雪面が硬くなり、稜線付近はカリカリのアイスバーン。稜線に飛び出すと風がまともに当たるが真砂沢の雪面は暖かい太陽の日差しを浴

びて我々を招いているように感じる。露岩の下で風を避けながら行動食を食べて滑降の準備。真砂沢を見ると先行パーティーが滑っているので我々も負けじと真砂沢に飛び込んだ。上部は適度に緩んだザラメ状の雪面なので快適にスキーが回転する。あっと言う間に真砂沢のノドの部分を過ぎると雪が重くなってきた。更に下降すると雪崩のデブリが多くなり、快適な滑降とは言い難くなってきて頃に雪崩のデブリが積み重なった剣沢に合流。ここで大休止しスキーにシールを貼り付けて長〜い剣沢を登高開始。先行の女性2人パーティー

は平蔵谷に入って行ったので平蔵谷を滑る予定だろう。

若さ溢れる体力と行動力が羨ましい。我々は雷鳥沢の腐れ雪を驅しながら滑りテント村に帰幕。(テント着 15:00)

翌日は御山谷からタンボ沢を滑る予定でしたが、文明の利器を利用して黒部ダム経由で扇沢に向かった。帰路途中で、鹿島槍ヶ岳ダイレクト尾根を登攀した本団さん、渡辺さんパーティーと合流して茨城に帰着。

(木村 記)

滑降する中島

## 浮川・小田倉沢

2007. 5.8~9

パーティー 坂田英希

2007・沢シーズン初めのルート選考は難航した。

候補に挙がったのは実に10を越えた。

大常木谷、小常木谷、和名倉沢、大黒茂谷、小室川谷、豆焼沢・・・。とはいえ、今の心境に響く水線が見つからなかったコトも難航の理由であった。

栄誉ある沢初めを決める唯一の選考委員、坂田の基準はこうである

- ①魚が釣れる
- ②登攀が少ない
- ③水量が少なめ（泳がない）
- ④アプローチが少なめ
- ⑤ナメがよさそう

もはや沢ヤとはいいがたくもあるが、癒し系の沢旅にはこのくらいが丁度いい。

結局、急浮上した浮川・小田倉沢に決定した。実に山行前々日のことだった。

奈良の駐車場所から林に入って浮川に下りる。

降り立った丁度対岸に小田倉沢は出合う。広い河原はもはや初夏の陽射しを照り返し、目も開けられないほどに明るい。

シバラク河原歩きに従事するが、容易なナメ滝からが小田倉沢の実質的なスタートとなる。

ナメとゴルジュを過ぎるとF1、8m直瀑は左岸。大ゼン20mも左岸にフィックスが張ってあるので容易。

滝上はナメが美しい。

あとは今日一日どこで幕を張っても問題ないのでココからはゆったりと釣タイム。滝場はいくつかあったけれども、どれもフィックスが張ってあるので通過に問題はない。

どうにか今夜の食料計画も予定通り配膳できる目途が立ったので、ココからは距離を稼ぐ。

小田倉沢最後のF7・10m手前で幕とした。

毎度のことではあるのだけれど、単独での幕場業務は熾烈を極める。

整地から始まり、幕張り、薪集め、火熾し、魚捌き。

ヤレヤレってな具合だけど、今宵を思えば苦ではない。

残った僅かな時間で更なる獲物を狙いに

行くが、始めて僅かで仕掛けが絡まりあえなく敗退。

潔く諦め、もはや気持ちは焚火モードだ。今宵の一献は菊水ふなくち。コンビニでも入手できるがナカナカどうして。

容器もアルミ缶なので沢にはもってこいの一品。

豪勢な焚火を眺めながら沢でやる一杯にひとくち目は唸り、ふたくち目には天を仰ぐ。

天を仰げば豪勢な焚火の火の粉がそのまま星になっていく。

明けて、最後の滝を左岸から小さく巻くとあとは平凡な流れを奥の二股まで。

立ち木にペンキマークがあり、微かに延間峠への踏み跡が判別できる。

二股からは尾根を一つ乗り越し、津室沢を下降する

津室沢はシバラク平凡な流れを淡々とこなしていくが、下部に滝場が連続する。

10m滝は右岸を巻き下るが、足元が落ち

葉に埋もれて、緊張を強いられた。

45m三段ナメ滝は3つあるリングボルトに捨て縄をして懸垂下降を2セット。ツルツルのナメで鉛直方向に振られないよう注意しながらなので緊張感は最高潮。最後の25m三段も懸垂下降。鉄杭やワイヤーロープといった、変則支点に緊張を強いられる。

あとは一投足で渾川。

少し下れば三重泉沢出合。そこを堰堤先まで遡りあとは適當なガレを林道まで上がる。

一時間もあるけば駐車場のある奈良だ。

道すがらオヤツを頬張りながら、山行を振り返っていた。

とある休日のこの安息。

孤独と言えばあまりに孤独、自由と言えばあまりに自由なこの時間。

このゼイタクさ、ご理解いただけないものだろうか。

(坂田 記)

## 一ノ倉沢・変形チムニー

2007. 6.16

パーティー 渡辺聰子、坂田英希

「”変チ”がいた！三人パーティー！」

前日、深夜にも関わらず盛況の登山指導センターに山行計画を提出し終えた時のひとことだ。

入梅にもメグズ、計画を諦めなかつた甲斐はあつた。嬉しい誤算で梅雨のハシリに晴れをもたらしてくれた。

早朝、一の倉沢出合は土曜日にも関わらず盛況なのは、この天候の影響が大きい。

見渡す限りでも5パーティー。奇妙な緊張感にとらわれるのは毎度のこと。

とはいえ、そうもたくさん変チパーティーがいるはずも無く、幾分落ち着きを取り戻す。

出合から右岸の巻き道をシバラク行っても雪は出てこない。

去年の7月はこの辺で雪渓だったのだが、さすがに今年は雪が少ないのであろう。

ようやく雪渓が出てきたものの、前方にシェルンドが大きな口を開けていた。

丁度、秋の巻き道に上がるリッジのあたりだった。

リッジに上がり、なんとなくそこを上がっていくと、ぐんぐんと高度を上げ、とても雪渓に降りられなくなつたので、そのまま

秋道を行くこととした。

下降地点に着くと、先行の5人パーティーがフィックス頼りにクライムダウンしていた。

テールリッジはところどころ湿ってはいるもののフリクションが良く効き快適だ。快適だが反比例して息が上がる。このところ山に遠のき、これほどに鈍っているというのが現実だ。

この先が思いやられた。

中央稜基部。

ほかのパーティーを意識しここはスルー。前の二人はダイレクトカンテ、すぐ後の2人は中央カンテへ行くという。

我々も変形チムニーの取り付きへと急いだ。

鳥帽子沢奥壁には先行が2パーティー取り付いていた。南稜と中央カンテ。

久しぶりの谷川。幾分興奮気味に取り付けへと向かうと中央カンテには、坂田のお知り合いが。

ネットオーナーの安藤さんと現場監督さんのレンジャーパーティー。嬉しい偶然に緊張も緩む。

挨拶もそこそこに、取り付きへ急ぐ。  
カンテの取付きから幾らも行かず、目立つところに支点があった。  
ココが取り付きであろうと見上げれば、いくつかスリングが見える。と共に滴る水で岩が際立って黒い。  
これはもはや沢登り。沢は沢でも鳥帽子沢だ。

今日のオーダーはさかぼうが先陣を切る。  
濡れ濡れの岩を濡れ濡れになりながら行く。下から見たスリングはちょっと届きそうに無いのでスルー。  
左にトラバるといいランニングが見つかった。そこからさらに左に行くと格好のフェイスが見えた。  
そのときである。

「オー！ ココだここ。こっちが変チだよ」  
件の三人パーティーだ。

我々の取り付きより 10 m ほど先に陣取った彼らは自信満々であった。で、結局はその自信満々さに負けた。  
到達地点から懸垂下降し、後塵を拝する事となる。

1 P・リード  
下部はカンタンなフェース。上に行くにしたがって立ってくる。  
本来のビレイ点をスルーすると、水流が横切るもののがリクションは問題ない。  
上部 2 P 目手前までロープ一杯に伸ばし、

先行で満員のビレイ点が空くのをシバラク待つが、時間ももったいないので手持ちのハーケンと岩角で支点を作る。

#### 2 P・フォロー

正面に見えるフェースは少々手強いが、それを越えると傾斜は落ちる。変形チムニー手前まで。

#### 3 P・リード

変チの核心。左のフェースは濡れ濡れでしかもヌルヌル。かなりイヤラシイ。  
そこで下からバックアンドフットで体をズリ上げていく。  
地味に地味に。あまりの地味さに嫌気がさして A O。これで一気に体が上がる。  
中間部で体を入れ替えて最後のチョックストーンは左から越えた。

#### 4 P・フォロー

フェースを越え、カンテルートへトラバース。

意外と悪い。

#### 5 P・リード

中央カンテと合流し、チムニーは程よく乾いて快適に越える。  
爽快爽快。あとは特に印象の無いフェース。

#### 6 P・フォロー

正面を左から巻き込むようにフェースを行く。

上部から音も無く落石。数m先に落下。強い爆発音と硝煙。

一瞬、何がおきたのか解らなかった。

アブねえ、アブねえ。

#### 7 P・リード

人工のフェース。せっかく持ってきたので、アブミを使う。

抜け口ではヌンチャクを掛けそれにつかり、やりたい放題のエイドクライミング。

#### 8 P・フォロー

ハング下、左クラック。

最後の一手が見つからずA.O.

四畳半テラスは、崩落で埋まってしまい今では2畳ほど。

#### 9 ピッチ・リード

凹状は足元が悪く、ドロドロですべる。

泥のついたクライミングシューズが乾いたスラブにこれまた相性が悪い。

上部核心が終わったからといってナメてはいけないピッチ。

#### 10 ピッチ・フォロー

草つきから凹角、最後はちょっとだけフェース。

フェースを越えれば鳥帽子岩が堂々たる姿で眼前に迫り来る。

本来はあと2ピッチ伸ばすのだが、ココで終了。

あとは空懸と徒步で南稜終了点。ようやく人心地で遅めのランチタイム。

下降は6ルンゼ。

中央稜基部で装備の確認と靴を履き替えれば僅かな開放感が嬉しい。

先出の安藤氏と上野氏とも再会を果たし、お互いの山行を語り合う。

あとはよりフリクションの効きが良くなつたテールリッジをコロコロと雪渓、草つきをボトボトと一の倉出合にたどり着く。

「”変チ”がいた！三人パーティー！」  
睡魔のなかにもにわかに緊張と興奮を覚えた昨夜の記憶。

思わぬ好天に快適な登攀。圧倒的に楽しかった充実感のなかに後塵を拝したホロ苦い想い。

もはやすべてが遠い過去のような、追憶の彼方。

翌日、筋肉痛に悩まされながら、独り思い出し笑い。

「青春だなあ」

(坂田 記)

## 《友好山岳団体の月報・会報・その他》

ありがとうございました

### 月報

◎ろうまん山房通信 NO. 38 2007. 8. 9 B5 16P Rohman Sanbow

東北・八幡平～秋田駒～森吉山、川内・南大谷沢、五十母川～日本平山、大雪・クワウンナイ川、富士山、足尾・三重泉沢ほか

◎ろうまん山房通信 NO. 39 2006. 10. 11 B5 20P Rohman Sanbow

北ア・五色ヶ原、谷川・ナルミズ沢、真昼岳・善知鳥沢～大曲花火、会津・大幽東ノ沢～丸山岳、北ア・朝日岳、東北・きのこ山行ほか

◎まほろば NO. 41. 42 2007. 8 B5 16P まほろば山岳会

越後・巻機山井戸尾根～牛ヶ岳、秩父・入川林道～中小屋沢～川又、大洞川市ノ沢、上越・赤谷川渋沢、湯檜曾川ほか

◎まほろば NO. 43 2007. 9 B5 12P まほろば山岳会

南ア・易老沢～光岳～聖岳、奥秩父・久渡沢ナメラ沢ほか

◎まほろば NO. 43 2007. 10 B5 10P まほろば山岳会

片品川根羽湯沢カラノマタ沢、越後・三国川下銅倉沢～ネコブ沢、二口・名取川二口沢南沢右沢～左沢ほか

◎まほろば NO. 44 2007. 11 B5 10P まほろば山岳会

那須・北湯温泉～三本槍岳、上州・四釜川～尼ヶ禿山～伽葉山、岩トレ・女ヶ岩、山人祭ほか

◎まほろば NO. 45 2007. 12 B5 14P まほろば山岳会

上越・蓬沢、総会資料ほか

◎まほろば NO. 46 2008. 1 B5 8P まほろば山岳会

上越・足拍子岳、尾瀬・戸倉～尾瀬ヶ原ほか

◎まほろば NO. 47 2008. 2 B5 8P まほろば山岳会

尾瀬・岩鞍スキー場～笠ヶ岳、頸城・天狗原山、奥武藏・武川岳、さいたま市岳連雪山講習会ほか

◎まほろば NO. 48 2008. 3. 4 B5 9P まほろば山岳会

上越・巻機山～大烏帽子山～清水峠～蓬峠、会越・叶津～沼の平～浅草岳ほか

- ◎まほろば NO.49 2008.5 B5 12P まほろば山岳会  
苗場山ピストン、上越・柄沢山～ナラ沢～松永山～巻機山、清水～巻機山ピストンほか
- ◎まほろば NO.50 2008.6 B5 16P まほろば山岳会  
奥秩父・和名倉沢、山菜山行・南会津塩の岐川三本ほか
- ◎まほろば NO.51 2008.7 B5 8P まほろば山岳会  
会越・浅草岳、那須・湯川中の沢～熊見曾根、奥秩父・滝川～金山沢～曲沢、両神・日向大谷～清滝小屋ピストンほか
- ◎まほろば NO.52 2008.8 B5 10P まほろば山岳会  
下田・光来出川～栗ヶ岳ほか
- ◎わらじ NO.617 2007.8 B5 10P わらじの仲間  
朝日前衛・女川藤沢川～女川、奥多摩・小川谷割谷ほか
- ◎わらじ NO.618 2007.9 B5 16P わらじの仲間  
谷川・湯檜曽川東黒沢～丸山越～ウツボギ沢～白毛門、薄根川川場谷、飯豊・長走川大滝沢～オーサンカイ尾根、南会津・下ノ沢、湯檜曽川ケサ丸沢&西黒沢ほか
- ◎わらじ NO.619 2007.10 B5 12P わらじの仲間  
白神・暗門川フガケ沢～赤石川ヤナダキ沢～赤石川本流～石ノ小屋沢～大川オロの沢～オリサキ沢～大川、屋久島・大川～永田岳～宮之浦岳～縄文杉～白谷雲水峡、頸城・鍋倉谷サクラ谷、谷川・湯檜曽川抱き返り沢～朝日岳ほか
- ◎わらじ NO.620 2007.11 B5 18P わらじの仲間  
秋の集中・丸山岳・只見川北沢、黒谷川大幽西の沢、東の沢、白戸川メルガ股沢、袖沢乗越など5パーティ、朝日・八久和川中俣沢、富士スバルライン自転車～剣が峰ほか
- ◎わらじ NO.621 2007.12 B5 24P わらじの仲間  
金精峠～温泉ヶ岳～根名草山～八丁ノ湯、奥多摩・巳ノ戸谷、虎毛・虎毛沢～赤湯又沢～戸沢～大湯ほか
- ◎わらじ NO.622 2008.1 B5 16P わらじの仲間  
南ア・戸台～北沢峠～仙丈ヶ岳、地蔵尾根～仙丈ヶ岳～北沢峠～戸台、井戸尾根～巻機山ほか
- ◎わらじ NO.623 2008.2 B5 14P わらじの仲間  
越後・銅倉尾根、神室山～火打山、土樽～タカマタギ山ほか
- ◎わらじ NO.624 2008.3 B5 20P わらじの仲間  
栗ヶ岳、丹沢・大倉尾根、高妻山スキー、戸隠スキー、上三依温泉口～白倉山～日留ヶ岳、

海谷・鬼が面山南西尾根A稜右稜～駒ヶ岳西稜、ハツ・赤岳、南会津・古町丸山～山毛櫟山ほか

◎わらじ NO. 625 2008. 4 B5 26P わらじの仲間

越後・清水～井戸尾根～巻機山、白毛門、平標山、越後・戸倉～鳩待峠～赤倉岳～下津川山～十字峠、信越・布岩東南稜～布岩山～鳥甲山～屋敷ほか

◎わらじ NO. 626 2008. 5 B5 16P わらじの仲間

帝釈・荒海山～湯西川、浅草岳、南会津・内川布引山～小立岩、北ア・赤岩尾根～鹿島槍ヶ岳、葡萄尾根～大源太山～弥助尾根ほか

◎わらじ NO. 627 2008. 6 B5 32P わらじの仲間

西上州・小倉山～高反山、越後駒ヶ岳郡界尾根、北ア・五竜岳G0&A沢滑降、白毛門～巻機山～高仙尾根、北ア・合戦尾根～燕岳、越後・銀山平～小倉山～越後駒ヶ岳、北ア・太郎兵衛平スキー、信越・野反湖～赤石山～岩菅山～切明温泉、会越・守門岳～浅草岳周辺ほか

◎わらじ NO. 628 2008. 7 B5 18P わらじの仲間

春の集中・小手沢山・3パーティ、西上州・御堂山～じいとばあ、釈迦山～尼ヶ禿山～玉原湖、那須・阿武隈川白水沢、北ア・黒部ダム～真砂岳～室堂ほか

◎わらじ NO. 629 2008. 8 B5 36P わらじの仲間

川内・室谷川倉谷沢～駒形山、谷川・赤谷川小出俣沢マチホド沢～大ビノ尾根、那須・苦土川井戸沢、谷川・鷹の巣C沢、富士山、飯豊・荒川左岸内川左俣～大石川東俣川末の沢、川内・早出川今早出川沢ガンガラシバナ、和賀・大鷲倉沢、富士山、尾瀬・片品川根羽沢大薙沢左俣、毛猛・毛猛沢本谷～毛猛山～未丈ヶ岳～三ツ又口ほか

◎わらじ NO. 630 2008. 9 B5 32P わらじの仲間

朝日・樹形川フスベ沢～樹形川岩魚沢、帝釈・片品川北岐沢、トランスジャパンアルプスレース、奥利根・樅俣川本流～尾瀬、尾瀬・小渕沢、マッターホルンヘルンリ稜ほか

◎わらじ NO. 631 2008. 10 B5 20P わらじの仲間

北八甲田・仙人岱～毛無岱～酸ヶ湯、平が岳大白沢アサユウ沢、奥秩父・ナメラ沢、利根川小穂口沢北沢右俣、越後沢中俣、ほか

◎さわぐるみ NO. 48 2007. 8 A4 16P グループ沢胡桃

日光・細尾峠～東大芦川ヒガキガタア沢～本流～夕日岳～細尾峠、吾妻・前川大滝沢、谷川・万太郎大ベタテ沢右俣、御坂・芦川横沢、奥多摩・日原川小川谷滝谷ほか

◎さわぐるみ NO. 49 2007. 9 A4 56P グループ沢胡桃

八幡平・葛根田川戸繁沢～大石沢、朝日前衛・荒川樋ノ沢川北俣沢、中ア・中田切川大新井沢～マセナギ～荒井沢、正沢川細尾沢幸ノ沢、妙義・入山川並木沢、奥利根・櫛俣川～イズル沢右俣右沢、夏合宿・朝日連峰・3本のルートあり、ほか

◎さわぐるみ N0.50 2007.10 A4 20P グループ沢胡桃

巻機・姥沢川米子沢～奈良沢川上ゴトウジ沢～ブサノ裏沢、虎毛・江合川寒湯沢～芦沢～杉ノ森沢、朝日・金目川左俣ほか

◎さわぐるみ N0.51 2007.11 A4 24P グループ沢胡桃

巻機・金山沢、南会津・大幽西の沢～東の沢、朝日・荒川中俣、焼石・夏油川大鹿沢、ウシロ沢、那須・白水沢左俣～大白森沢、尾瀬・片品川センノ沢、越後・水無川笹花沢～高倉沢、三国川黒又沢日向沢ほか

◎さわぐるみ N0.52 2007.12, 2008.1 A4 18P グループ沢胡桃

妙義・中木沢鳥帽子沢右俣、会越・只見川霧来沢鍋又沢右俣右沢～左俣、奥利根・矢木沢川ジロウジ沢四ノ沢、上州武尊山・塗川東沢江戸沢、北ア・島島谷～徳本峠、奥秩父・乾徳山、八ツ・阿弥陀岳、吾妻・西大嶺ほか

◎さわぐるみ N0.53 2008.2, 3 A4 14P グループ沢胡桃

尾瀬・岩鞍～西山～坤六峠～西栗沢左岸尾根、谷川・二居～二居峠～東谷山～貝掛温泉、谷川・毛渡沢レスキュー訓練、上信越・大高山、信越・佐渡山ほか

◎さわぐるみ N0.54 2008.4, 5 A4 28P グループ沢胡桃

上州・小野上十二ヶ岳、尾瀬・戸倉～アヤメ平～尾瀬ヶ原～広窪沢左岸尾根～戸倉、戸倉～尾瀬沼～桧枝岐、妙高前山、袴ヶ岳、丹沢・玉川南沢、四十八瀬川小草平の沢、南会津・蟹沢～窓明山周辺、奥多摩・日原川小川谷カロー川谷、奥秩父・小常木谷レスキュー、丹沢・早戸川瀬戸の沢、奥多摩・日原川唐松谷ほか

◎さわぐるみ N0.55 2008.6 A4 18P グループ沢胡桃

台高・銚子川岩井谷～大杉谷、大峰・白川又川口剣又谷、焼栗・祭時山、上越、日白山、奥秩父・入川赤沢谷白泰沢、朝日・小沢源頭部、奥秩父・大洞川和名倉沢、滝川古礼沢ほか

◎さわぐるみ N0.56 2008.7 A4 14P グループ沢胡桃

両神・野栗沢赤沢悪谷、奥多摩・南秋川小坂志川湯場の沢、谷川・一の倉沢中央カンテ、渡渉訓練・魚野川ほか

◎さわぐるみ N0.57 2008.8 A4 40P グループ沢胡桃

大丹波川真名井沢、大源太周辺、丹波川・一之瀬川竜喰谷、笛吹川久渡沢ナメラ沢、石筵

川、檜又谷大スラブ、荒川折戸川、末沢川大石沢ム沢～長津川～大峠、北俣沢ササラ沢、塗川西俣沢、湯檜曾川抱返り沢、楳俣川ヘイズル沢、日崎沢～裏日崎沢、ガラン沢～魚野川、清津川釜川右俣ヤド沢、芦沢～宝川板幽沢ほか

◎さわぐるみ NO.58 2008.9 A4 30P グループ沢胡桃  
朝日・東大鳥西の股沢水上沢～三面川化穴沢～以東沢、三面川本流～以東沢、三面川岩井沢、足尾・平川湯ノ沢～皇海山、谷川・大源太川鷺の首沢、越後・三国川黒又沢日向沢、上信越・雜魚川本流～外の川～曲川、奥秩父・ホラの貝ゴルジュ、南ア・大井川赤石沢大雪渓沢ほか

◎Next ! NO.139 2007.7 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん  
竹の子植生調査山行ほか

◎Next ! NO.140 2007.8 B5 20P 山岳溪流釣り集団むげん  
奥秩父・大常木谷、奥多摩・ワサビ谷、南ア・奥西河内、只見川袖沢乗越～北沢ほか

◎Next ! NO.141 2007.9 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん  
丹波川トレーニングほか

◎Next ! NO.142 2007.10 B5 20P 山岳溪流釣り集団むげん  
朝日・八久和川、わさび畑沢、立谷沢ほか

◎Next ! NO.143 2007.11 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん  
黒部・赤木沢ほか

◎Next ! NO.144 2007.12 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん  
南会津・丹波川ほか

◎Next ! NO.145 2008.1 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん  
奥利根・奈良沢、つづら岩ほか

◎Next ! NO.146 2008.2 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん  
仲間の近況報告ほか

◎Next ! NO.147 2008.3 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん  
つづら岩ほか

◎Next ! NO.148 2008.4 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん  
溪流の下見、秋田・粒様沢ほか

◎Next ! NO.149 2008.5 B5 24P 山岳溪流釣り集団むげん  
秩父・大洞川井戸沢、惣小屋沢、アケノ河内ほか

◎Next ! NO.150 2008.6 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん

丹波川ほか

◎Next! NO. 151 2008. 7 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん

女川ほか

◎Next! NO. 152 2008. 8 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん

丹波川・小常木谷ほか

◎Next! NO. 153 2008. 9 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん

朝日・三面川、アイサワ谷ほか

◎とまのかぜ NO. 176 2007. 7 B5 46P 童人トマの風

御神楽岳・前ヶ岳 V字スラブ～霧来沢左俣～右俣、芋川ジロト沢 B ルンゼ右スラブ、会越・室谷川駒形沢、霧来沢大鍋又沢、虎毛・皆瀬川小鳥谷沢、栗駒・磐井川西桂沢、会越・破間川・下黒姫&上黒姫沢、下田・光来出川白根沢、川内・五十母川ム沢～日本平山、尾瀬・根羽沢湯沢、会越・叶津川～田代平、遅沢周辺遡下降、小川山フリー、北ア・白馬乗鞍岳&小蓮華岳、鎧ヶ岳～鎧沢、鳥海山・石禿川右岸尾根ほか

◎とまのかぜ NO. 177 2007. 8 B5 24P 童人トマの風

奥秩父・笛吹川、飯豊・加治川古岐沢、谷川・足拍子川経木ノ沢カブトノ沢、和賀・袖川沢キノト沢、某川・某谷、大幡川四十八滝沢、安部奥・安倍川黒沢左俣・白沢中俣、奥利根・楳俣川狩小屋沢ほか

◎とまのかぜ NO. 178 2007. 9 B5 90P 童人トマの風

和賀・大杉沢、谷川・東黒沢～ウツボギ沢、跳子川岩井沢、中ア・正沢川幸ノ沢、丹沢・勘七ノ沢、中ア・中御所谷西横川、越後・北ノ又川、ナルミズ沢、南会津・伊南川下ノ沢、谷川・湯檜曽川ケサ丸沢右俣、奥利根・越後沢右俣、滝ヶ倉沢、朝日・朝日俣沢岩魚止沢、飯豊・飯豊川本流～文平沢右俣、胎内川坂上沢左俣、奥多摩・日原川巳ノ戸谷、北ア・打ちみ谷、利根川本谷、奥利根・楳俣川ススケ沢、楳俣川ヘイズル沢左俣左沢～狩小屋沢、南会津・実川硫黄沢、南ア・赤石沢、川内・仙見川中俣沢、谷川・湯檜曽川高倉沢左俣、焼石・屎前沢本流ほか

◎とまのかぜ NO. 179 2007. 10 B5 58P 童人トマの風

上信越・清津川足尾沢、毛猛・仕入沢～二俣ノ沢、越後・足拍子川フトゴキ沢～経木ノ沢、越後・北ノ又川滝ハナ沢、三国川仙ノ滝沢、谷川・湯檜曽川大倉沢、姥沢川南ノ入り沢右俣、谷川・鷹巣B沢、北ア・高瀬川滝ノ沢ツバメ沢、湯檜曽川白樺沢、湯ノ小屋川木ノ根大沢、飯豊・胎内川楳ノ木沢堂沢、越後・三国川銅倉沢沖クボ沢、北ノ俣川芝沢左岐左沢、南会津・白戸川メルガマタ沢、焼石・夏油川ウシロ沢、奥利根・矢木沢川西メーグリ沢～

宝川板幽沢、南会津・大幽西ノ沢～東ノ沢ほか

◎とまのかぜ N0. 180 2007. 11 B5 66P 童人トマの風  
会越・蒲生川、大白沢～真奈川、滑沢～石高沢、持場沢～小金花沢、蒲生川本流、床滑沢～沢つづけやす沢～笠倉沢～蒲生川、出羽三山、栗駒・麝香熊沢右俣～赤沢、奥利根・小穂口沢本沢、巻機・五十沢割石沢、南会津・袖沢ミチギノ沢～御神楽沢、八甲田・黄瀬沢、奥利根・奈良沢川四番手沢～三番手沢、越後・三国川下津川本谷、奥只見・只見川大白沢シロウ沢ワカゴイ沢、南会津・伊南川黒檜沢、登川・蓬沢～北ノ沢右股、吾妻・不動沢、尾瀬・笠科川スリバナ沢、越後・芋川ジロト沢左俣、笛吹川・東御築江沢左俣、北会津・安座川、谷川・一ノ倉本谷下部ほか

◎とまのかぜ N0. 181 2007. 12 B5 28P 童人トマの風

遭難対策訓練・秋川小坂志川、谷川・一ノ倉本谷下部、佐梨川雪山沢、立山・雷鳥沢&真砂岳スキー、神室・神室山～火打岳、房総・待崎川～元清澄山&小糸川～三郡山ほか

◎とまのかぜ N0. 182 2008. 1 B5 18P 童人トマの風

越後・銀山平～越後駒ヶ岳、春日伦ゼアイス、西黒尾根、信越・岩菅山、戸隠・西窟尾根～八方睨、会津駒ヶ岳ほか

◎とまのかぜ N0. 183 2008. 2 B5 44P 童人トマの風

戸隠・西岳、越後・池ノ塔尾根、白山・赤兎山～三ノ峰、裏岩手・姥ガ岳・中倉山、乗鞍・大崩山・猫岳、越後・割石沢左稜～高棚川左岸尾根、南ア・戸台川赤河原アイス、上信越・堂岩山、北ア・輝山、八ツ・阿弥陀岳北稜、横岳石尊稜、南ア・芦安アイス、尾瀬・西山、奥武蔵・越生～四寸道～高山不動ほか

◎とまのかぜ N0. 184 2008. 3 B5 38P 童人トマの風

頬城・乙妻山・五地蔵山、戸隠・高妻山、南会津・二岐山、群馬吾妻・不動の滝アイス、中ア・念丈岳～安平路山、越後・御神楽岳大蕎麦谷左岸尾根、頬城・米山、火打山、南ア・赤河原アイス、大渚山、奥飛驒・平湯～四ツ岳、上信越・中里～荒沢山、四阿山、上州武尊山・荒砥沢、西上州・御場山西ルンゼアイスほか

◎とまのかぜ N0. 185 2008. 4 B5 46P 童人トマの風

谷川天神尾根・雪山訓練、越後・足拍子山ヒロクボ沢右稜、谷川・平標山～ユウガイヒト沢、上信越・大谷不動アイス、西上州・相沢アイス、谷川・シンセン尾根・シンセン前前沢、中ア・滑川奥三ノ沢アイス、越後・白山～栗ヶ岳、妙高・火打山、八ツ・南沢アイス、巻機山・井戸尾根～米子沢、谷川・武能岳、頬城・天狗原山～金山、伊豆・城が崎フリー、南会津・布沢戸板山、越後・柄沢山、両神・赤岩沢大滝ほか

◎とまのかぜ N0. 186 2008. 5 B5 50P 童人トマの風

越後・巻機山～ブサの裏沢～深沢、上ゴトウジ沢～ノミオ沢、奥利根・柄沢山～コツナギ沢～刃物ヶ崎山、柄沢山往復、巻機山・高仙尾根～割引岳～巻機山～威守松尾根、下ゴトウジ沢、1809峰、越後駒ヶ岳・郡界尾根、北ア・不帰III峰B尾根、谷川・赤谷川源流、海谷・鳥帽子岳東稜～阿弥陀山、越後駒ヶ岳、谷川・朝日岳、利根・ノミオ沢、頸城・小谷温泉～真川～焼山、上信越・銅倉尾根～下津川山、頸城・焼山ほか

◎とまのかぜ N0. 187 2008. 6 B5 54P 童人トマの風

北ア・前穂高北尾根、剣沢～小黒部谷～毛勝山～東又谷、南会津・三羽折の高手～丸山岳～三岩岳、北ア・不帰I峰尾根、III峰C尾根、尾瀬・燧ヶ岳、鳥海・布沢、尾瀬・南田代～赤倉岳、飯豊・四本の沢をスキー、北ア・赤谷尾根、五竜G5,G2,G0稜、小川山フリー、後立山・鹿島槍ヶ岳～爺ヶ岳、虎毛・役内川三滝沢～湯ノ又沢、奥武蔵スノーハイク、只見・伊南川黒沢大沢右俣、会越・日向倉山、毛猛・大川猿倉山、奥多摩・鷹の巣谷ほか

◎とまのかぜ N0. 188 2008. 7 B5 54P 童人トマの風

会越・浅草岳集中・7パーティ、当会も大三本沢に参加した、奥多摩・小川谷悪沢、上州武尊山・武尊沢、御神楽岳・高頭スラブ・ダイレクトスラブ、下田・駒出川サワラ沢～中の俣沢、那須・阿武隈川、南ア・早川保川、吾妻・中津川、帝釈・実川赤安沢トヤマ沢、富士山スキー、北ア・槍ヶ岳、鳥海・白雪川左岸台地、会越・室谷川ほか

◎とまのかぜ N0. 189 2008. 8 B5 52P 童人トマの風

渡渉訓練・笛吹川、東沢清兵衛沢右俣、ホラノ貝ゴルジュ、丹沢・水無川、越後・登川丸ノ沢本谷、会越・柴倉川ゴルジュ、南ア・栗代川～大無間山～寸又峠、下田・笠堀川光来出沢、川内・今早出川～大川、会津・大桧沢～飯森沢、室谷川十字峠沢～駒形山、大源太川七ツ小屋裏沢、檜又谷三ノ沢、黒部上の廊下、丹沢・箱根屋沢、奥多摩・入川谷、川内・谷沢川大清水沢～日本平山ほか

◎とまのかぜ N0. 190 2008. 9 B5 67P 童人トマの風

尾瀬・大白沢クロウ沢～松嵐沢、安部川・コンヤ沢ホーキ沢、中ア・越百川、谷川・万太郎谷戸沢、川棚沢、会越・蒲生川滑沢～宿場沢、信越・清津川釜川俣、北ア・折立～新川～ヤクシ谷～太郎平小屋～高天原～赤木沢、御坂・横沢、日高・ヌビナイ川左俣、エサオマントッタベツ川、札幌近郊・白水川、積丹・伊佐内川、川内下田・割岩沢～矢筈岳～光来出沢～東又沢～光来出沢～粟ヶ岳、飯豊・大石川東俣川千代吉沢、朝日・根子川、荒川中俣沢、谷川・赤谷川渋沢、丹沢・中川川悪沢、神ノ川大岩沢、芋川・ジロト沢右俣ほか

◎すずらん通信 NO.316 2007.7 B5 5P 鈴蘭山の会

谷川・東黒沢～ウツボギ沢、奥多摩・鷹ノ巣谷ほか

◎すずらん通信 NO.317 2007.8 B5 12P 鈴蘭山の会

奥秩父・大洞川荒沢谷桂谷、大若沢、奥多摩・火打石谷、奥利根・檣俣川前深沢～至仏山  
～笠ヶ岳～湯の小屋ほか

◎すずらん通信 NO.318 2007.9 B5 24P 鈴蘭山の会

奥秩父・大黒茂谷、南ア・野呂川・荒川～間ノ岳～広河原、奥秩父・大洞川井戸沢、巻機  
山集中・金山沢、下ノ滝沢、米子沢～上ゴトウジ沢、ヌクビ沢ほか

◎すずらん通信 NO.319 2007.10 B5 15P 鈴蘭山の会

上州武尊・川場谷、袖沢北沢～丸山岳～メルガ股沢、谷川・鷹ノ巣C沢、後方羊蹄山、南  
ア・赤石沢ほか

◎すずらん通信 NO.321 2007.12 B5 6P 鈴蘭山の会

かぐらスキー場～雁が峰、八甲田、北ア・爺が岳、鹿島槍ヶ岳ほか

◎すずらん通信 NO.323 2008.2 B5 10P 鈴蘭山の会

甲斐駒ヶ岳、苗場、平標山、富士山双子山、神奈山&坪岳ほか

◎すずらん通信 NO.324 2008.3 B5 8P 鈴蘭山の会

浅間山、草津・芳が平、白毛門ほか

◎すずらん通信 NO.325 2008.4 B5 12P 鈴蘭山の会

雪山訓練・谷川、日白山、会津駒ヶ岳、巻機山ほか

◎すずらん通信 NO.326 2008.5 B5 12P 鈴蘭山の会

澄川～容雅山～北桑沢、至仏山、爺が岳、猿倉～白馬周辺ほか

◎すずらん通信 NO.327 2008.6 B5 12P 鈴蘭山の会

雪倉岳、朝日岳、広沢寺、岩場レスキュー、小雲取谷ほか

◎すずらん通信 NO.328 2008.7 B5 12P 鈴蘭山の会

富士山、沢の救助訓練、東黒沢、秋川鈴ヶ尾沢ほか

◎すずらん通信 NO.329 2008.8 B5 15P 鈴蘭山の会

笠ヶ岳、水根沢、奥秩父・大洞川和名倉沢、大蛇尾川西股、東股、丹沢・原小屋沢、谷川・  
馬蹄形縦走ほか

◎すずらん通信 NO.330 2008.9 B5 18P 鈴蘭山の会

北ア・金木戸川小倉谷、五竜岳&鹿島槍ヶ岳、八久和川、奥多摩・倉沢谷本谷ほか

八ヶ岳ほか

◎逍遙 NO. 23 2007. 6 B5 22P 逍遙溪稜会

奥秩父・笛吹川ヌク沢左俣右沢、滝川本流～古礼沢～雁坂峠、入川真ノ沢～雁坂峠、豆焼沢～雁坂峠、奥多摩・西川、表妙義縱走、奥多摩・犬麦谷、中ア・正沢川細尾沢、上州武尊・薄根川川場谷、奥多摩・日原川大雲取谷ほか

◎逍遙 NO. 24 2007. 7 B5 26P 逍遙溪稜会

谷川岳一周、丹沢・小川谷、奥多摩・多摩川、南会津・伊南川保太橋沢、南ア・釜無川尾白川本谷、雨畠川奥沢谷北ダル沢、谷川・魚野川仙ノ倉沢西ゼンほか

◎逍遙 NO. 25 2007. 8 B5 24P 逍遙溪稜会

焼石・尿前川本谷、上越・三国川・黒又川日向沢、谷川・東ゼン、湯檜曾川東黒沢白毛門沢、奥利根・権現川ススケ沢、朝日・根子川柴倉沢、谷川・万太郎谷大ベタテ沢、南ア・白峰三山ほか

◎逍遙 NO. 27 2007. 10 B5 16P 逍遙溪稜会

朝日・朝日川ハトアザノ沢～大留沢柴倉沢左俣、上信越・四万川～ガランノ沢、白砂川ガランノ沢、奥飛騨・高原川沢上谷、上信越・清津川棒沢ほか

◎逍遙 NO. 28 2007. 11 B5 18P 逍遙溪稜会

尾瀬・センノ沢～八木沢左俣～フトコロ沢、丹沢・世附川大又沢フジモク沢、早戸川原小屋沢鳥屋鐘沢、奥武藏・大久保谷フキアゲ沢右俣、安蘇・桐生川十二沢、裏妙義・入山川裏谷急沢、丹沢・中津川二十女沢、奥武藏・生川大持沢、奥多摩・養沢川障子岩窪～つづら岩ほか

◎逍遙 NO. 30 2008. 1 B5 P 逍遙溪稜会

丹沢・虫沢川ダルマ沢左俣～小菅沢田代沢、北ア・徳本峠、奥多摩・つづら岩、鋸尾根～金毘羅尾根、八ツ・編笠山、権現岳、上越・秋葉山ラッセル訓練、北ア・上高地ほか

◎逍遙 NO. 31 2008. 2 B5 P 逍遙溪稜会

奥多摩・つづら岩、金峰山、荒沢山カドナミ尾根、丹沢・前大沢ほか

◎逍遙 NO. 32 2008. 3 B5 P 逍遙溪稜会

丹沢・牧馬沢、玄倉川大野山沢、春岳沢、ミズヒ沢、笛子沢、モミゾ沢～四十八瀬川、上越・西ゼン、土合～万太郎山～土樽、土樽～七ツ小屋山～清水、奥多摩・モクボ谷、丹沢レスキュー訓練ほか

◎逍遙 NO. 33 2008. 4 B5 18P 逍遙溪稜会

根子岳、湯の丸山、頸城・焼山、奥多摩・入川布滝沢～川苔谷打石谷、入川本谷、尾瀬・燧ヶ岳、丹沢・源次郎沢、両神、野栗沢所ノ沢、北ア・乗鞍岳、白馬金山沢ほか

◎逍遙 NO.34 2008.5 B5 P 逍遙溪稜会

北ア・剣沢ほかスキー、頸城・火打山、大峰・上多古川～阿古谷、神童子谷～レンゲ坂谷、大菩薩・小室川谷、日原川川乗谷、奥武藏・浦山川大久保谷、奥秩父・小常木谷、後山川塩沢～奥甚助窪、奥秩父・槇の沢八百谷～曲谷、笛吹川釜の沢ほか

◎逍遙 NO.35 2008.6 B5 P 逍遙溪稜会

つづら岩、白馬大雪渓、早川・滑河内、日光・外山沢緑沢～庵沢、御坂・三ツ峠、大滑沢、大若沢、赤沢谷、股の沢、長滑沢、鶴冠谷左俣、奥鬼怒・深沢上タキ沢、太田切沢ほか

◎逍遙 NO.36 2008.7 B5 P 逍遙溪稜会

渡渉訓練・多摩川、両神中津川・石船沢、足の松尾根～長坂、南ア・聖沢、巻機・登川姥川南の入沢右俣、中ア・正沢川、大武川～水晶沢左俣、梅池新道ほか

---

### 会報

---

◎ADVENTURE forum NO.25 2007.11 A4 8P 植村記念財団

植村直己の山に明け暮れ日本脱出の夢が形に・・ほか

◎ADVENTURE forum NO.26 2008.2 A4 8P 植村記念財団

ヒマラヤで大金星の初登頂ほか

◎とまのかぜ 年報 NO.14 2007.11 B5 281P 童人トマの風

会山行として・二口山塊6本、白毛門&宝川流域7本、長須ヶ玉山周辺7本、越後荒沢岳7本、羽前葉山6本、無雪期の山として・飯豊朝日4本、川内下田6本、越後三山巻機毛猛9本、谷川奥利根4本、南会津1本、北海道2本、東北10本、北中南ア4本、奥秩父2本、上信越関東6本、南紀1本、雪の山として・下越越後奥利根7本、谷川1本、北海道7本、東北6本、北ア頸城8本、南ア三本、ハツ2本、関東近郊1本、佐渡島1本、海外1本ほか

◎わらじ（創立50周年記念誌） 2007.11 A5 438P わらじの仲間

単一山岳会でこれだけの書物を作れるクラブはそうないだろう。立派なものである。第1章・わらじの仲間の半世紀から見えるもの、第2章・チーフから人が時代を創り時代が人を創った、第3章・五年リレーでつなぐ世代に追う活動記録後継者たちの系譜、創立期から現在までの記録の一部を掲載、第4章・8人の仲間が残していくもの・創立以来8人を山で失った、第5章・OBと現役から わたしが創ったわらじ五十年の歴史、第6章・地域別山行一覧50年の足あと、「うへん立派だ」の一言に尽きる。

◎飯豊（創立 50 周年記念誌） 2007. 11 A5 474P わらじの仲間

上記のわらじとセットになった作りで、かなり立派な出来。玉川 17 本、大石川 7 本、胎内川 15 本、飯豊川 18 本、内ノ倉川 7 本、長走川 7 本、実川 20 本、その他の流域 7 本、積雪期の飯豊として厳冬期 15 本、残雪期 10 本が掲載されている。さすが「わらじ」である、脱帽、おそれいりました。

◎茨城県稲敷郡阿見町の維管束植物 2006. 8 A5 78P 栗原孝

OB の栗原孝博士ほかによる研究報告書 あまりに専門的で難しい、本図には？？？

◎インドキッシム＆中国雲南＆中央アジアの旅 成末洋介

成末氏による報告書・インド・シッキム＆中国雲南、中央アジア、ペルーほか

◎茨城岳連 NO. 27 2007. 11 B5 12P 茨城県山岳連盟

茨城岳連の機関紙

◎茨城岳連 NO. 28 2008. 6 B5 12P 茨城県山岳連盟

私の駄文も載っています。

◎海外溯行研究 NO. 1 2007. 6 A5 232P 海外溯行同人

1963 年～1993 年間の海外遡行の報告書。私には夢のような台湾の大渓谷の記録が並んでいる。この歳になっても、このような谷に挑戦してみたいという気持は変わらない。台湾の概要、台湾五岳の遡登の記録 27 本、台湾その他の記録 3 本、会員の「世界の沢への想い」 15 本、会則ほか

◎年報逍遙 NO. 16 2008. 6 B5 97P 逍遙溪稜会

2006 年の沢と山スキーの活動記録 合宿＆集中 3 本、沢は東北から関西まで 23 本、積雪期は山スキーと岩トレ、縦走など 5 本が収録されている。

◎年報沢胡桃 NO. 1&2 2008. 4 A4 187P グループ沢胡桃

CD-ROM 付の年報、2004, 2005 年の記録が収録されている。東北の沢 11 本、越後を含めた関東周辺の沢 36 本、アルプスの沢 3 本、紀伊半島の沢 4 本、山スキーの記録 9 本が収録されている。

◎ステップ NO. 22 2008. 3 A4 100P 日立電線文化体育会山岳部

創立 50 周年記念誌 第 1 部・50 周年雑感＆活動記録 8 本、第 2 部・茨城県山岳連盟創立 50 周年記念海外登山参加記録、第 3 部・写真でつづる「日立電線山岳部 50 年の歩み」、付録・歴代部員名簿など 6 本。

◎年報わらじ NO. 30 2008. 6 A5 403P わらじの仲間

2006～2007 年度の活動記録、冬山・2006 年 10 本、2007 年 40 本、春山・2006 年 8 本、

2007年28本、夏山・2006年7本、2007年36本、秋山・2006年7本、2007年28本など素晴らしい記録が列挙されている。

◎漂泊の山旅 2008.4 A4 248P 徒登行山岳会

2001年10月、吾妻連峰の塩ノ川で逝った吉田幸雄氏の追悼号  
300回を数える山行の中から抜粋したもの。第1章 山旅編4本、沢登り編10本、山スキーブ15本、海外編三本、第2章 通いつめた山と谷三本、第3章 山の明け暮れ、10本、山行一覧ほか

以上閲覧したい方は本図まで

## 編集後記

先日馬蹄形縦走をしている年配の方と稜線で出会った。家に戻ってから調べてみると一泊二日で行うのが通常らしいのだが、その方は一日でやりとげんとしており、おまけにコースタイム通りの時間で達成できるかも、とうれしそうに話されていた。おそらく70近い、あるいは超えているであろうに、そのモチベーションの高さにとても感動した。自分も中高年と呼ばれるようになっても、気力体力を持ち続けていたいものである。

(S子)



季報〔R & V〕第64、65号 発行 2008年秋

発行人：本図一統

発行所：ACCJ-茨城

編集者：本図一統、渡辺聰子

印刷所：やまと印刷





岩壁、沢、冬山のクライミング集団